

★ THE MARIONETTE. EDITOR, J. NAN—E ★

人形會館

numéro 1 1933



THE Puppet Show in England (1848)
— Edited by George Cracchant

號一第 · 卷一第

會協劇演土鄉

人取為庶

壹

目次

題

簽

坪内逍遙

國家の保護を受くる實體は
どこにある？問題はこれだ

石割松太郎 五

文樂への私考

小宮豊隆 二

千言一句に如かん

木谷蓬吟 三

文樂座の國家保護問題其他

辻部政太郎 三

將來の文樂座を如何にして
發展向上させるべきか

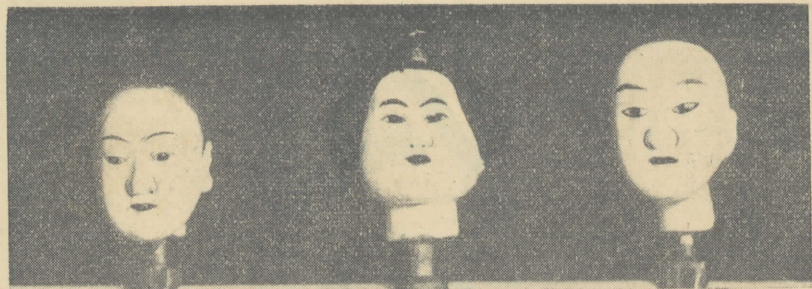
升屋治三郎 五

文樂座補助金使途の事

阿部次郎 三

古典藝術の保存

坪内士行 四



「文樂協會」是非

大西利夫 七

賢問愚答

竹内勝太郎 三

文樂座當面の問題

高谷伸三

二問に答へて

島村民藏 四

驥尾に附して

南江二郎 五

國際人形劇聯盟

南江二郎 五

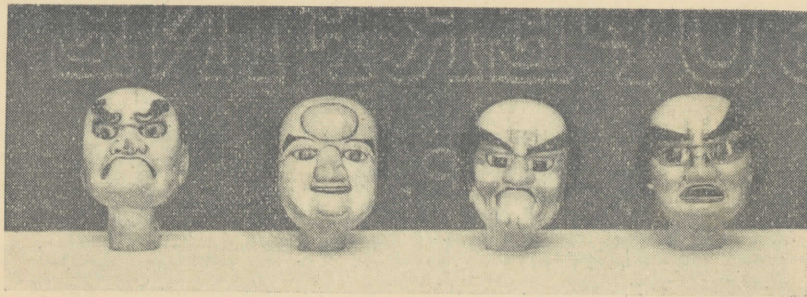
六號文献其他

挿畫銅版

(一)人形遣ひの妻。 (二)金時の白頭。 (三)「一ツ家」の妖婆。

(四)舞臺圖録三葉。 (五)天狗久。外に淨瑠璃操人形解剖圖其他の凸

版數葉 目次挿畫 (1)文樂の頭、(2)阿波天狗久作の頭



第一圖。「人形遣ひの妻」 木谷千種女史畫、南江二郎藏

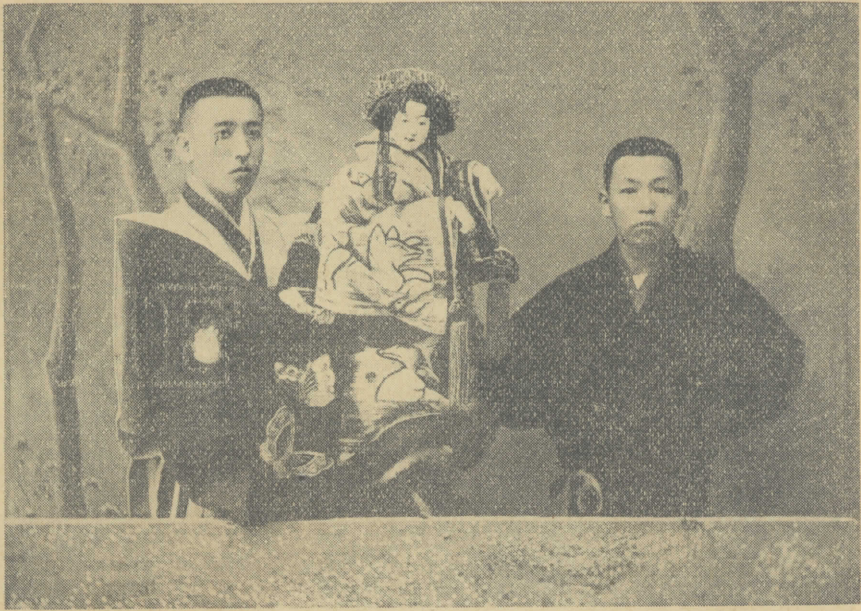
第二圖。「金時」の白首しろがしら。「先代萩」の松前鐵之助等に用ふ。次の人形と共に、何ものかに對する人形の憤怒が迫つて來る。勿論この首は現文樂座所藏のものである。

第三圖。「奥州安達原、一ツ家」の妖婆。見るからに物凄。近年殆んど上演しないが、朝顔日記、「摩耶ヶ嶽」に出る老婆、荒瀧にも用ひられる。例の深雪が阿曾次郎の行衛をたづねて追ふうち、この荒瀧に隅つて目をつぶされるのである。人形は百面堂主人藤堂猷三氏所藏









舞臺圖錄一

二代目吉田玉造の「狐火」

初代吉田玉造の高弟二代目吉田玉助は明治三十九年三月初代玉造の一週忌を期して二代目玉造を襲名、攝津大椽の「十種香」に八重姫を遣つた。この寫眞はその時の「みだれ」になつてからのもの。右は弟玉七、現文樂座内で文樂正系の人はこの人だけであらう。



舞臺圖錄二

木下狹間合戦

壬村村の段

石川五右衛門 兵吉
 眞柴 久吉 玉藏
 治左衛門 東吉

これは近松座所演のものであるが十二月興行とだけ記入何年のものか不明、玉藏は三代目玉造の後の名、東吉は岐阜の人形遣ひださうである。



舞臺圖錄三

昭和六年文樂座四月所演

近頃河原達引

堀川猿廻しの段

切 竹本土佐太夫

野澤吉兵衛

與次郎の母 吉田小兵吉

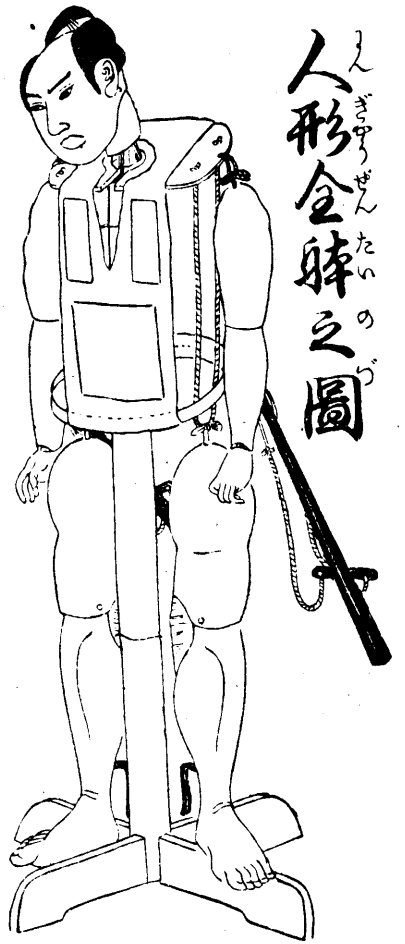
弟子おつる 吉田文之助

兄 與次郎 吉田榮三

娘おしゆん 吉田文五郎

井筒屋傳兵衛 吉田扇太郎

人形金縛之圖



文樂問題
檢討號に就て

文樂座保護の建議案が議會を通過したのを機として、ジャ・ナリズムは一齊にこれを取上
世人も多少の關心を示すに到つたが更生の本誌が特に此問題を取上げたのは、斷じてその
驥尾に附して共から騒ぎをやり、人形をでく坊化して一芝居打ちたい爲ではない。

あくまで公平無私なる第三者の立場より、此問題の真相を検討して、今まさに崩壊せんとしつつある、我が
淨瑠璃操劇の病源診察の一参考資料とすると共に、既にその病源の何處に存するかを熟知せらるる斯道専門
家諸氏の最も權威ある正鵠なる所見を聴き、以つて盲目の偶像に開眼をほどこし、單にその命脈を繋ぎとめ
るのみならず、これに不朽の藝術的生命を與へたい爲に外ならない、偶像は心に生きる。打てば響けよ喝！

國家の保護を受くる實體は

どこにある？問題はこれだ

石 割 松 太 郎

文樂座の検討と保護問題とにつきて、意見を徴せらるゝに當り、まづ第二の問題から論じようと思ふ。

二、將來の文樂座を如何にして發展向上させるべきか
と言ふ『人形芝居』編輯者の課問であるが、私をして言はしむれば、『將來の文樂座を如何にして保存すべ
きか』といふが、適切な言現し方であらう。爰にいふ『文樂座』とは『操り』といふを、代名詞『文樂座』と
用ひたにすぎない事、問者も答者も同じ用途である。

即ちこの問題は、私はこの十數年論じ盡し書き盡したほど秃筆を驅使したから、爰では私の言ふ趣旨綱要
だけを一つ書きしておく。

一、今日の操りは、發達の極度に到つたもので、この形式この音律、この節廻はしでは、この上の發達の
餘地がない。

二、その上、社會一般の音樂的趣味好尚が、今日の操淨るりが持つ旋律のソレとは、根本的に違ふ。

三、操りの一面は『音楽』であるから、操りが生存すべき社會の音樂的好尚に基礎をおかない音樂の存立は古典としての愛好者にしか、受入れられないのが當然である。

四、この意味からして壽命の盡きた『操』に起死回生の術があるべきでない。―即ち操りに今後の發展はない。延長である。

五、將來にあるものは、今日までの操の純正な姿を、能ふべきだけそのままに保存する外、道は斷じてない。保存に値せないものなら捨て、おけ。

六、將來に『發展向上』があると假定する者は、(一)『淨るり内容の時代の適應』(二)『三味線の手の單純化』(三)『節詞の平板化』を主張する。

七、内容は措いて問はない。節、詞、三味線の單純化は、今日の操の破壊乃至、變俗である。

八、さういふ意味の新しい操―人形淨るりを考案、創始するならば、御勝手だ。論者の御意のまゝだ。が然しそれはともかく現今の文樂座の從業藝人の試むる事業でない。現在の文樂座操りに携はる藝人は實際において操の保存にしか役立つものではない。

九、その實例は、『爆彈三勇士』のあの人形、その三味線、あの節、詞の拙劣及び淨るりの持つ味ひと内容との時代錯誤が、生きたその一つの證據である。

十、新しい人形淨るりの創設を企圖して、一方完成された古典藝をむざ／＼捨つるに及ぶまい。

十一、かういつた建前からして、私は『將來の發展向上』を策する事、その事が古典の冒瀆だと切言する。

十二、保存の道を講じて、進むうちに一個の天才が出現するならば問題を超越して、『操』の革命？、發展

？を遂行するであらう。それは丁度、古淨るりの末に當流義太夫が出たが如く、義太夫の歿後に政太夫が出現したやうなものだ。―が、その天才を作り捏ち上げようとするのは宇宙の攝理に對する冒瀆だ。また捏ち上げ、作り上げた天才で、何が出来るか。底が知れてゐる。それよりも天才が生るゝには生るゝだけの『温床』を拵へておけばよろしい。私のいふ『温床』とは何んぞや。現在の操を出来るだけ、及ぶべきだけ完全に保存する事だ。

◇
この保存の道は、どうするかといふ問題が自ら第一問の國家保護問題に繋がつて行く。乃ち第一問について、私の意見を開陳しよう。

一、文樂座の國家保護問題

私は、今日までの議會における文樂座保護問題を、新聞で承知しただけの知識で判斷すると、無意義な事だと考へる。痴人白晝夢を説くものだと思つたい。建議案を委員會が採擇して議會を通過したのは現實の事實だが、次に來るべき問題は、補助金の問題だ。が、然し今日まで建議案は通過したが、實行に及ばない採擇建議案の末路の例は澤山ある。『古典藝術』として國家が保護せねばならぬ。―保護すべしだ。―といふ尤もな主張で何人も反對せぬところである事明かだ。だから採擇された。建議案に提出者と賛成者の調印がズラリと並ぶといふ形式の整ふ事は當然の事だが、採擇された建議案に實が結ばねば畫ける餅だ。然しそれは將來の事であり、實行の問題だ。成るとも成らぬとも、私は斷言はしないが、茲に私に、別に二つの疑問

が起る。

(イ) 一體、國家が保護するといふ實體は何？『古典藝術』として國家が保護しようとするに異論はない。保存に値する『操り』を、立派な『古典藝術』として國家がこれに保護の法途を講ぜんといふ當然の事だ。が、保護さるゝ實體は『操』といふ藝術であつて、營利會社が營利の對象として喰ひ荒してゐる『文樂座』では斷じてない。この保護さるべき實體をハッキリと區別してかゝらぬとんでもない事になる。私は第二問に際して『操』の代名詞として『文樂座』を許容したが、保護さるべき實體として『代人』は許すべきではあるまい。乃至『文樂座』ソノモノが、眞に營利を離れて國家的事業に取扱つた時にこそ、保護さるべき『操』と『文樂座』とは合して一體となるのだ。今日の文樂座はさうではない。營利會社の一個の喰ひ物にし過ぎない。營利會社の資本の個體に過ぎないものを、國家が保護すべき筋合があるだらうか。第一の疑問はこれだ。

斯くの如く保護さるべき實體に疑問があり、不純なる被保護者であるがために、この問題が議會を通過したといふや、東京の因會なる團體が俺の方も、保護して貰らう。分け前に預からうとんだ斧九太夫が飛出して、口利く人を介して、建議案提出代議士に會見したと云ふ事だ。―お笑ひ草だ。雨が降れば表の溝板が流れようといふ場末の九尺二間住ひの古典藝術家が、デン／＼とやつてると保護されるといふ理屈も、『今の文樂座』が保護さるゝならば、あなたがち笑へないでその言分だけは立つだらうぢやないか。―私共は豊後節です、一中です、河東です、蘭八です、といふ建議案が採擇さるゝと、さぞや文質彬彬聖代の代議政體の名に背くまいテ。といふ事になる。眞に淨るり道を憂ふるもの

憂はこれだ。『國家の保護』といふ美名の許に補助金をせしめようといふ量見は、三下野郎の魂性であり、河原乞食の常習だ。まづ保護さるべき實體を保護されて恥かしくないものにして。『人形淨るりの保存』はまづ、この覺悟から出發せねばならぬ。

これが私の疑問の第一で、言はば實行上の實際問題だ。もう一つ藝術上の問題として、今度の文樂座の國家の保護に對して私に第二の疑問がある。

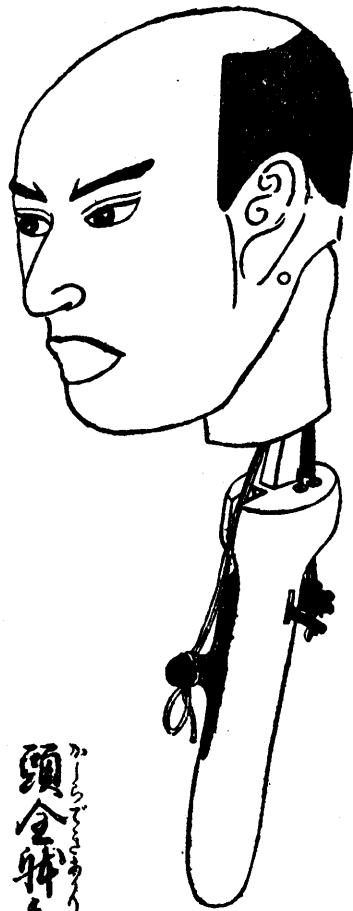
(ロ) それは、新聞に傳ふるところによると、文樂座の保護問題は、文部省の管掌で、鳩山文部大臣が口を利いて『思想善導』などを云々されてゐるやうに仄聞する。こゝに私の疑問がある。文部省の管轄として保存するといふならば、所管大臣が謂ふ『思想善導』といふ一點に目安が置かるゝらしく察する。私は、藝術は、今日謂ふところの『思想善導』の具ではないと承知してゐる。崇高な藝術が、『思想の善導』であり得る事は事實でもあらうが、それは藝術の使命ぢやない。副作用だ。まして封建制度の道徳を骨子とした、高が淨るり作者の勸懲主義的の淨るり内容が、淵源遠く且つ深い現代思想の『善導』に資しようなどは、迂遠極まる話であると共に、そんな意味で保護さるゝ事は『操』の恥辱だとさへ、私は思ふ。何故ならば、保護さるべきは、操の花であつて、内容ではないからだ。淨るりの内容を保護する趣旨ならば見當違だ。間違つた保護は迷惑千萬である。

文樂座で、嘗て中等學校の女學生のマチネーをして『千代萩』の政岡忠義の段を語つた太夫が、女學生が皆泣いてゐた、政岡の忠義に感じたのですと得意になつて話された時に、その藝人の稚氣を、私は愛したが、『思想善導』の具として、文樂の操を保護しようといふ建議案には、私は稚氣を愛し

てのみはゐられない。人形淨るといふ藝術の拭ふべからざる恥辱だと叫びたい。こんな汚點を残したくない。

理窟はなんとでもいふ、何で保護されようとも『錢さへ貰らへばえゝやないか』といふらしい當事者に對しては、再び言ひたい、三下野郎の魂性はよせ。河原者の常習から脱せよと勸める。――が、或は、案外『思想善導』と言はるゝのが嬉しいといふ稚氣愛すべき手合が多いのだから、全く、實以つて手が付けられない。――世の末だよ。が、人形淨るりを眞に愛すればこそ、憎くまれ口も利く――身の因果だネ。

(昭和八、四、九)



かみしりてはまうりのついで
頭金縛り之圖

文樂への私考

小宮豊隆

文樂が國家的に保護されるやうになつたといふのは大變結構な事だと思ひます。その保護のための補助金がどの位出るのははしりませんが、さしあたりきつと少額なものであるに相違ない。とすると何をすれば可いか。

私は第一に文樂の人形芝居をトオキイにとるが可いと思ひます。松竹にはトオキイの機械がある筈だから是はそんなに金がかゝらないに相違ない。

それからもつと金があれば、一方で人形芝居の歴史を誰かに頼んで編輯してもらふ事です。

もつと金があればいろいろな方面から専門家をたのんで人形芝居そのものゝ藝術的な研究してもらひ、それを總合して出版する事です。これは然し一番金のかゝる事かもしれないと思ひます。然しこれをやつて置かないと人形芝居は恐らし後世に残らないし、残つても後世の役に立たないだらうといふ氣がする、外にまだ文樂座見物の會員をつくつて一方ではそれ等の人である程度の費用の保障をし、一方では國庫の支出で埋

め合せをして今の文樂の人形芝居をもつと純粹に演出させる事も出来るでせう報いられる事の甚だ少ない人形遣ひのためにその生活を補助してやるといふ方法もあります。が、ともかく國庫からいくら出るかといふ事がきまつてからでないといふと、その金をどうするのが最も有効につかふ所以であるかは一寸きめられないやうです。

千言一句に如かん

木谷蓬吟

一、お他力の善男善女や春の旅

二、名人と名作者出よ初裕

文樂座の國家保護問題其他

辻部政太郎

一、文樂座の國家保護問題

文樂座保護の建議案が議會を通過し、ジャーナリズムも、最近この問題を中心に文樂座に關するいろいろの問題を盛んに取上げ、従つて一般社會人の關心が、若干なりとも、今文樂の人形淨瑠璃に向いてゐるといふことは、もとより喜ばねばならない現象です。

しかし、現實的な問題として、右のやうな狀勢が、今後どういふ好結果に展開するかといふ點になると、甚だ懷疑的たらざるを得ません。

まづ、國庫補助金を下附されるといふことは、もちろん結構として、その多寡に拘らず、それを運用する具體的方法なり大體の方針なりが正しい見透しの下に確立されねばならないことはいふまでもありません。第一に補助金を貰ひつゝ經營して行くべき主體が問題ですが、今のところでは、準備中の文樂協會なるものが、パトロン的機關として側面擁護をなしつゝ松竹が依然經營をつゞけて行くことにほゞきまつてゐる様子です。經營當事者として松竹の從來のやり方に、甚だ遺憾な點の多かつたことは今問はないとして、この新しい文樂協會が果してどういふ機能を果し得るか、を問題にしなければならぬでせう。今までに報導され

てゐる所ではこの文樂協會といふものは、甚だ無定見な、文樂の本質に對する認識さへ欠いた集合のやうなもので、果して今後松竹に對して高次のな立場を儼然と保ちつゝ、指針を示し、誘導して行けるかといへば頗る疑問です。例へば、廣く淨瑠璃の新作を募集して新時代に觸れるとか、全國のアマチュアファンから太夫人形遣ひを選抜して充實するとか、女義を活用するとか、凡そ無意味な提案が堂々と呈出されてゐるところを見ると、この協會が却つて今後の文樂の道を少からず誤らせるのではないかと案ぜられます。

一體に、文樂座の危機は、經營的根據以上に人形淨瑠璃そのものへの認識不足が大きいことは、既に一部の人には指摘もされてゐる通りです。だから名士的なファンや、生半な文樂通ではなくて、ほんとうの純な文樂愛好者に訴へ得るやう、眞の理解者の言葉に背いて、人形淨瑠璃興行の正道に歩むべきです。さうしてこの優れた殘存古典藝術を美しい古典として出来るだけ永く保存するに努力すべきでせう。で、この問題は必然に第二の問題に移ります。

二、將來の文樂座をいかにして發展向上させるべきか

ほんとうの心持を云へば、發展向上といふ言葉を、その本來の意味通りには、將來の文樂座に對して使ひ難いやうに思はれます。しかし、邪道の興行方針を排して、最も正しい方針に歸ることが、質的に考へれば發展向上ともいへるでせう。

とにかく先づ緊急なことは、文樂の人形淨瑠璃は、古典藝術だといふ自明な認識を確立させることです。このわかり切つたことが、經營者にも一部の論者にも案外わかつてゐないと思ひます。新作奨励や單なる料金値下等の方法による淺薄な大衆化の方面が、何ものをも齎さないだらうことは明かです。

古典藝術としての世界に自らを局限した上で、現在の欠點と不安を除去してこそ始めてその美しさを發揮出来るのであり、その生命も比較的永く保たれ得ると確信します。

能が一方で、古典藝術としてハッキリその位置を認められてゐるのに、人形淨瑠璃には、なほ新作提唱その他いろ／＼の現代化説が飛び出すのは、その史的古さや形式的嚴正さに於ける相違のみならず、人形淨瑠璃の民衆的卑近さ、親しさの特性にもよるでせう。

しかしそれらにも拘らず、文樂の人形淨瑠璃は既に立派な古典です。凡ての藝術形式は、特に演劇のやうな社會の動きに直接觸れることの激しい藝術形式は、その發展過程に於て、新しきものを次々に吸収して生長して行き得るのに一定の限度があります。徳川時代に於ける上方町人藝術の一つとして興つた人形淨瑠璃は幾多の消長變轉を経て、明治時代の一時的隆盛期に及ぶまでは、なほ、その餘燼的な燃焼力をなほ衰へない消化力を残してゐました。しかしその最後の過程を通して、その形式は一應完結してしまつてゐるのです。今の文樂が、その最後の隆盛期に比して一般に技術が低下してゐるから古典藝術として有難がるのは可笑しいなどといふのは少し暴論です。又過去に新作を抱擁咀嚼して來たからこれからも同じやうにそれが可能だと考へるのは、今もいふやうに藝術史に對する十分の理解を缺いた可なり大きい謬見と考へられます。

新しい西歐風マリオネットの形式は別として、文樂式の、あの人形淨瑠璃は、あれなりに完成し切つたものです。問題はだからその早急な頹落を防ぐにあるのです。

造形美術や文學に對して、所謂歌舞音曲に屬するものは、時間的藝術の特性として甚だ移ろひ易いことは仕方がありません。殊に演劇のやうに確たる記録法も残らず、再現方法も集團的で大袈裟なものは、古典的

傳統をそのまま維持するのは甚だ厄介です。だから明瞭に古典藝術としてその眞價が決定されれば、あとは出来るだけその本来の古典味を保持するに努力しなければなりません。

これは決して生命の枯渇を意味しません。その立場を踏み外さなければ、それは優れた古典としてやはりそれに觸れる現代人の心も博ちます、さうしてその範圍に於てのみ、それは最大の價値を以てなほ生存することが出来るでせう。

この大きい目安さへ狂はねば、あとの方針や方法は比較的容易でせう。今、その具體策の一部として、たゞ思ひつくまゝを以下擧げておきます。中には單なる素人考へに過ぎない點もあるでせう。

一、會計 松竹は文樂經營に關する一切の會計報告を精密に公開する。

一、レパートリー レパートリーの狭少を僻け、プログラムのマンネリズムを排して、虐待されてゐる名曲を次々に床に上せる。四ツ橋文樂開場以來、特に同じものが多く繰返され、上場されない佳曲が頗る多い。例へば「日吉丸」「岸姫松」「楠昔囃」「鎌倉三代記」「木下隆狹間合戦」「箱根靈驗」「新薄雪」「信仰記」「矢口渡」「迎駕」「國語詢音頭」「八百屋献立」等々枚擧に遑がない。

一、一年に一回ぐらゐは、昔のドラマツルギーをハッキリ見せるためにも、時間の犠牲は拂つて、「通し狂言」を完全に見せる。これらは「忠臣蔵」「千本櫻」「廿四孝」「伊賀越」「菅原」等に限らず、通しとして見るに足るものは、復興的に興行する。

一、適時、埋もれた古名曲の研究の復活をやる。可能性は稍々問題だが、近松のみならず海音の作品にも注目し人形淨瑠璃爛熟期の出雲、宗輔、文耕堂、千四、松洛等の合作品は、上演の遠のいてゐるものでも大した困難なしに上演し得ると思ふ。

それらの場合、原曲の古典を出来る限り傷けないやうに深慮を拂ふ。

一、研究的なる出し物と大衆的なる出し物を適宜配合する場合や、截然と二分して月の前半後半にそれ／＼短期的に行ふ場合等いろ／＼のテクニツクを考へる。

一、入場料 興行法にも前記の外いろ／＼邪道的ならざるパラエティを試み、時に一日の興行を主として入場料の立場から、二部制、三部制に分つて見易くする。即ちある場合には、一種の切見制を實施する。この場合出し物は一貫してゐても構はない。

一、全體的になるべく低廉を原則とし、新進競演の廉價興行を、年數回行ふ。

一、木 夫 津太夫、土佐太夫は顧問格とし、年二回ぐらい出演、平生は、後進を指導監督せしむ。

一、古敷に主として古名曲復活、乃至珍らしき出し物の上演を努力させる。

一、駒太夫をもつと重用し、古曲上演にも應援せしめ、大隅、鍛を活躍させ、(但し鍛はある場合の、語り口に於ける惡癖を矯正する必要あり)、つばめ、鏡、和泉、呂、南部、相生、文字、陸路その他有望な中堅新進を自由延ばさせる機會を興へる。

一、よく／＼の人材ならぬ限り、素人から太夫を物色する愚を止める。

一、無意味な掛合を廢止する。人数がこなせねば、語り日交替による競演その他の方法を執る。全體には各々語り口に合つたものをやらせることに、その反對に語り場と太夫が常に固定しないやうに注意する。

一、三味線 三味線弾きは今割合に豊富であるが、相手なき三味線弾きを、現在の如く掛合等に登用する外、機會の均等をはかる。例へば若手新進の太夫には、相三味線を固定しない方法など。

一、大體には太夫との最もよきコンビネーションを考へ、情實で左右されるやうなことからしめる。

一、太夫、三味線ともに絶えず、提携して、定期的研究會を持たしめる。

一、人形、人形遣ひ 現存する人形頭の保存に留意し、人形遣ひの待遇は、今よりもよくし、この方面には、年少の新進をも養成するに努力する。

一、榮三、文五郎等健在のうちに、紋十郎、扇太郎その他中堅新進の腕利き連中に、古いいろくの型を（特に古曲に關して）詳授せしめ、（それには埋もれかけた名曲を數多く上場することが必要である）、又公演を離れて人形遣ひの技術研究會を組織した上、之を指導せしめる。

一、又、功勞賞、優秀賞等を設けて。太夫、三味線、人形遣ひの三業者を振起せしめ、これは形式的、情實的に流れないやうに注意する。時に、現在よりも大膽なる新進登用を、いづれの分野に互つても敢行する。

一、文献 附帶事業としては、誤謬なき權威ある人形淨瑠璃關係の書籍、特に人形劇史、古文献等を刊行乃至蒐集整理し、人形淨瑠璃文庫を設け、一般研究者にも便宜を與へる。

一、以上大體は高踏的な興行方針に傾くが、時々思ひ切つた大衆化の努力も續ける。もつとも先に繰返した限度を踏み外さない事は肝要である。

一、文樂協會 文樂協會は條件なしのパトロンの存在を以て、一種の經濟的監督機關としてのみ權威をもたしめ出し物の選定その他の方針に關しては、その内部或は外廓に、極めて少數の信頼し得る識者—眞の文樂通に依頼して専任的最高顧問機關を組織せしめる。この人選は極めてテリケイトで困難だが、もしこれが思ふやうに出來得れば、松竹は、文樂座に關する限り、私心を捨て、迷ふことなく、この機關の方針に従ふ。

一、補助金 收支報告を明快にした上、右のやうな方針を誤らない限り、以上のうち經濟的困難を伴ふ項目の遂行のために國庫補助金及び其他の寄附金を以て之を遣ひ、文樂協會が之を監査する。

將來の文樂座を如何にして

發展向上させざるべきか

升屋 治三 郎

私は今暫く文樂を能樂同様のものと考へたくない、今日の能樂の演能は見物は九分通り、仕舞—極く少數の能樂—の稽古人である、だから舞臺で演じられる能は總てこれ等の人々へのお手本である。だから番組はそう變化に豊んだものでなくとも相當の人數の見物がある、今日の能樂はそれでよい。然し文樂はもつと娑婆つ氣がある、色氣と欲氣のあるものを無理に神棚へ祭り込めるにも當るまい、文樂を博物館へ陳列するもよいが、それよりもつと我々の中で生かしてはどうだらう。

私は只單に見物の一人として將來文樂が進むべき方向—よし國家保護になつても、ならなくても—私の信じる希望を述べる、或はそれは文樂の發展向上になるかならないかは知らないが。

先づ四月興行の如き二部制には大反對、興行家は願つてもない喧嘩で、議會は通過したの、府會市會で援助してもらえると大宣傳の矢先絞下争ひ、うまい處を見付けてお客の胸倉をつかまへての可愛がり様、場代が安うなつた—と難有い様ななきけな、いつもとなら晝夜を通すと場代は五割の値上げ、並んだ顔觸れはとんと變らず一枚の切符が二枚になり一冊の繪本が二冊になつた位のもの、いやもう御親切な座元

ではある。こんな虚假威しの二部制大反対、此一回限りで止めてもらいたい。要は夜店のバナナ賣りの様に口ばかり達者で三等品を賣るよりも譬へものは古風でも品さへよければ岩おこしはいつ迄も大阪名物であり賣れもすれば、分家の福おこしも新名物になる。今更ら木戸口で下駄札を叩すとも文樂は文樂で立派な沽券がある、文樂座は淨瑠璃稽古人の道場だけではないのだから、そう何日も何日も『沼津』や『吉野山道行』でもあるまい、成る程榮三文五郎の此道行は誠に鮮やかな結構なものである『沼津』にしても今日津太夫の右に出るものは恐らくあるまい、いくらいゝものでもそう／＼見せられては見物が疲勞れる、名劇『勸進帳』もまたかの關かと云れる様になつては價值半減。淨瑠璃は狂言に不自由する程少くはない筈だ。

出しても、新鮮である事が必要だ。と云つた處で新作を謳歌するのではない、寧ろ昔と異つて今日の『駕にゆられて』出來た新作にはとんと感心するものがない、ものさへ良ければ大いに感心する浩重は持ちあはせてゐる。頭から新作不可と稱する守株の徒ではない。此二三年來の文樂の番附には全然新鮮さが無い、同じものばかり繰り返してゐる。先づ第一に木谷蓬吟氏の様な上方の誇りとも稱すべき近松研究家を動かして近松門左衛門の名作の上演——無論これとて上演に際し種々名論卓説もあらうが、何としても今日では今日の文樂で見せられる様にアレンジしなければならぬ、嘗ては故人伊井蓉峯が近松研究劇をやつたではないか、近くは築地で『國姓爺台戰』が新アレンジで演出せられたではないか、芝居でも近松は舞臺に生きたではないか、それに文樂では、何處を風が吹いてゐるのかと云ふ様な顔さしてゐる。いや近松門左衛門のものばかりではない、名作淨曲は汗牛充棟だ、古典淨曲の復興と云ふ事が必要だ、こうなつて來ると文樂協會と云ふ様な文樂フアンの集りより文樂を指導して行く指導機關が、必要になつて來る——右も左も見ない様だ

けれど——斯道の大家藤井博士、石割松太郎氏、木谷蓬吟氏の諸先生に依頼して文樂の頭腦になつて貰ふ事が必要である。

太夫、三味線、人形遣ひの鼎立が必要であるのに拘らず兎角人形遣が疎になるのは甚だ遺憾な事である。文樂フアンの中には人形が邪魔になるなどと云ふ妄説をなすものもあるが私は寧ろ太夫、三味線を細かく味ふ素養のない爲か文樂の事で一番氣になる事は人形遣ひや舞臺裝置の將來の事である。

今日の文樂で舞臺裝置は成程随分行き届ひた設備はされてゐるかもしれないが、舞臺の必要以上の明暗・スポットの利用、新作ものなれば兎に角仕來りの狂言に一々電氣の縦横無盡の利用は賛成出來ぬ、背景にしても餘り油繪風な寫實風景は人形に合はぬ。人形芝居には廻り舞臺がなかつた代りに『どんでん返し』といふよい方法があつた、これとて今日では菊人形や、廓の踊へ行つて了つて殆ど文樂では用ゐられなくなつたが、實際の鮮でない暗轉より、よしそれが子供誑しの様なものだ云ふかもしれないが恐らく世界中何處にもない舞臺裝置の技巧であらう、何んこの『どんでん返し』が復活させ得ないものだらうか。

人形遣ひの技巧にしても『狐火』や『吉野山道行』の早替りでも薄暗い蠟燭の火で見た時にこそ凄艶さもあれば又鮮やかな處も目に立つ、その時と同じ演出法では今日何百燭光の光の下では鮮やかさは消されて幼稚な處だけが目に付く、これでは人形遣ひが損だ、同じ早替りでも少しは神經を働かして此特異な舞臺技巧を仕活かして欲しい。これには畫家との協力が必要である、少くとも『道行』に下手の袖から白狐を遣つて出る榮三のんだんらの衣裳は繪畫的ではない、早替りばかりではない出遣ひの時の人形と人形遣ひの衣裳の關係少しは頭を働かせて貰ひたい。

それから矢張舞臺の技巧の事だけれど、近頃とんとケレンものが出なくなつた。例へば『五天笠』『西遊記』の如き昔は宙乗り、早替り、どんでん返しと或は淨瑠璃の本質を忘れたものと非難されるかもしれないが、見て居つて實に愉快な人形芝居が見られた、吉田玉造の悟空の如きメイエルホリドやタイロフが見たら必ず驚いたに違ひない、あんなケレンものは復活させ得ないものだらうか、これはスペクタクルスとしての人形芝居を活かす方法だと思ふ。

右の條に必ずしも文樂の向上發展になる良策とは思はぬが見物としては少しは目先を變へてもらいたいと云ふ希望の條々である。

尙此機會に——何の機會か知らないが——文樂が中心になつて一應院本の整理をしてもらいたい近松のテキストは大分種々出てゐるが近松以下出雲、海立日を初めとして近くは平賀源内、又は『壺坂』の類迄活字になつてゐるもの、活字になつてゐないものを定本を整へ刊行して貰ひたい、『文樂協會』とやらが出来たら少しはこう云ふ方面の仕事もして貰ひたい、と云ふ様な仕事は文樂の繁榮策の一助とならないかしら。

(一九三三、四、九)

文樂座補助金使途のこと

阿 部 次 郎

一、金額が少ければ一纏めにして太夫及び人形遣ひの若手の賞金としたらどうでせう。大看板の先輩が審査員になつて特別に競演をさせてもらふと思ひます。

二、もう少し多ければ人形遣ひの生活安全を第一に考慮してやりたく思ひます。

三、更にもう少し多ければ新進養成の爲の給費などにも差向けたいものです。

四、少い場合には人形研究會などにも使へますね。床の方は節の改良の餘地がないでせうが、人形の方は様式の統一の方面でバタ臭く寫實臭くするとは反對の方面に研究改良の餘地があるかと思ひます。近松もなどを一つ一つ取扱ひながら、型の工夫や舞臺の統一などについて黒人素人取まぜて研究して行つて見たら何か面白い結果が生ずるかもしれません。

以上思ひつきを申し上げます。

古典藝術の保存

坪内士行

亡びゆくものをして亡びしめよ、と云つてしまへばそれまでのことであるが、温故知新の點から云つても、傳統をなつかしむ心から云つても、はた又祖先の努力を尊み敬する意味から云つても、古い藝術は出来る限りそのままに保存して行きたい。最近大阪の郷土藝術として世界に誇りうる人形淨瑠璃の保護や保存が叫ばれもし、實行にかゝられもするのは直接關係してゐない者にとつても、心から嬉しき事の一つである。と同時にこの事は他の古典藝術の保存より一層困難である事に想到して多少悲觀の念の湧くのを禁じえない。

正倉院の奥深く秘められてゐる御物其他の藝術品

さへも、或物は次第に色を變へ、形を損じ行きつゝあると聞く。ましてこれは、生きた人間が身をもつて作り出す藝術だ、時勢に應じて、第一やる人間の氣持が變つて行くのをどうしようもない。國家の助金によらうとする文樂保護の建議案が議會を通過したことは、兎角藝術を度外視する議會としては大出来であつて、誠に結構な事に相違ないがこの「人」の問題をどうしようとするのか、それが第一の難關であると思ふ。木谷氏が毎紙上で、「今日の文樂座を背負つて立つ人達が、本當に自覺して、われらは如何に壓迫されようとも、藝術精進のために頑張らねばならぬと云ふ根強い氣魄で當れば、今日見る

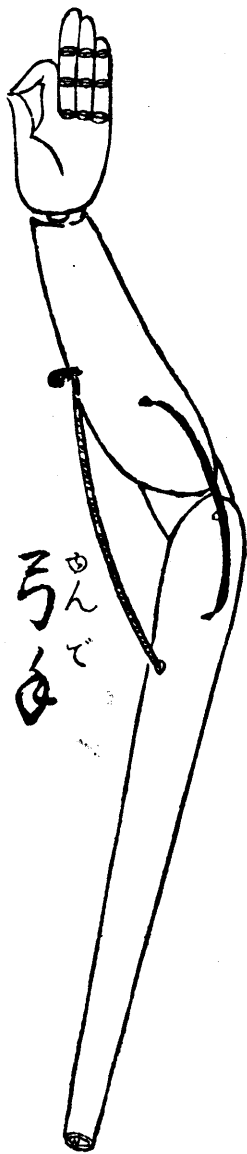
やうな文樂座の甚しい衰微は招かなかつたでせう』と云はれたのは至言であるが、關係のあまり深くない私などから見ると、さうした『自覺』や『藝術精進』のために頑張る氣魄』を求める方が無理な様な氣がしてならぬ。此の點、多少範圍の狭廣は相違するが『女形』の問題と同じ様に考へられる。『女形』が世界ユニークなものでありあの爲めにこそ歌舞伎の妙味は倍加するのであるが、それだからと云つて、これから『女形』藝術のために奮勵努力する新人が續々と現れようとはどうしても想像出来ない。それとほゞ同様に、太夫や三味線弾きはとにかくとして、最も大衆に訴へ易い人形操り手の後継者がどれだけ續出するか。能の方で笛方や鼓の名手が次第になくなつて、能樂そのものゝ大問題となつてゐると聞くが、素人にはさうした下方の問題は大してよく分らぬが、人形淨瑠璃の方で人形遣ひの名手がなくなつたら誰にでもすぐ其弱點が分つて、興味の三分の二

以上は失はれるであらう。『自覺』しないのではなくて、さうした『自覺』はしたくない當世風の心持が文樂の若手人形遣ひにも浸み込んで行つてゐるのではある。まいか？之が文樂の死活問題だ。この點、はたして補助金や文樂協會の資金によつて解決せられるであらうか？。

雅樂や能樂は、昔通りではないかも知れぬが、今も保存されてゐる。これ等と人形淨瑠璃とを比較する時、私は表象的藝術の永遠性を痛切に感じる。シムポリカルな藝術の方がリアリスチックなものよりよいか高いとか云ふ意味ではない。たゞ前者の方が縦に長く後者の方が横に廣いことを感じると云ふのである。舞樂能樂等の古典藝術が今だに命脈を保つてゐるのは、それ等が寫實味を脱してゐるが一原因だと解釋しては間違つてゐるであらうか？此等の比較は藝術の普遍性に關して、いろ／＼の暗示を與へてくれる

そこで問題は移つて文楽今後の出し物の方針と云ふことになる。之についても木谷氏が毎紙上で、云つてゐられる事は當つてゐる。即一方古典藝術としてソツと保護し保存すると同時に他方新しい現代の大衆に接觸させて、も一度生きた民衆藝術として復活させようと云ふのである。誰しもが此の二方法を考へる。そして誰しもが保存説は比較的簡單であるとして、まづ議論を後者へ持つて行く。文楽協會では『新作排撃はせぬが、場當りやキワ物本位は避け、大衆層進出のため料金低下、指導解説機關の設

置等により大衆の關心を引きよせる』ことに方針をきめた様である。これも誰しもが考へそうな事であるが、私は、恐らく之は最も時代錯誤的な破綻を生ずる。もとなりはせぬかと思つてゐる、料金を安くしたり、説明したりすれば大衆がついて來ると思ふのは間違つてゐはしまいか。むしろ『高級ファン
の支持により、純粹古典を保存し、年數回研究的な公開をする』と云ふ一項に全力を盡すべきだと考へる。之等なほ愚見無きにも非ずであるが、丁度枚數が盡きた。他日又云はう。(P.Cより轉載)



「文楽協會」是非

大 西 利 夫

文楽の操芝居を保護せよとの聲が近頃頻々高まつて來たが、最近また大阪の有力な人々がよつて文楽協會を組織することになつたとき。まことに結構な事であるが一體それは何をする協會であるのかも一つはつきりしないのは遺憾である。新聞で見ると、要するに協會は金を出しあつて文楽の御常連をつくるといふより外に何もなささうである。そんな事で文楽の保存、乃至頽勢が阻止出来るものなれば結構であるが、恐らく無駄な企に終るであらう。

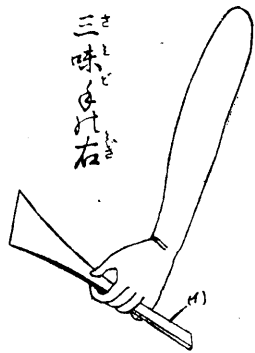
操芝居が衰勢をつけてゐるのは今日今更の問題ではない。二百年近くも昔の寶曆の中頃以後、次第に凋落し、明和安永に至つて既に一度完全に没落し

て了つてゐる。その以後全く草莽にかくれて、極めて消極的な命脈を漸くにしてつないで來たものを、たま／＼明治の初期、植村文楽翁の努力で息をふきかへしたとはいへ、畢竟それは古典の殘骸に新らしい粉飾を施したといふだけの事で、内部精神は既に亡んでしまつてゐる以上、頽瀾を既倒にかへす由もなきことは勿論である。操の今日あるは全く自然の推勢である。既に息の音をとめてゐる精神の復活を外にしては到底保存の目的は達し得まいと思はれる。操がその精神を亡び初めたのは遠く竹田出雲以來の事である。彼等は人形としての芝居の精神を忘れて生きた人間の芝居に近づける事に専念した。従つ

て藝術は本来の精神からかけ離れて、徒らに人形らしからぬ末技末節に囚はれることを得意とするに至つた。それは操芝居を發達の頂點へ到達せしめたが同時に崩壊への第一歩をふみ出した事にもなる。爾來今日まで、操は謂ゆる没落過程の紋切型を一路辿りつゞけつゝあるのである。

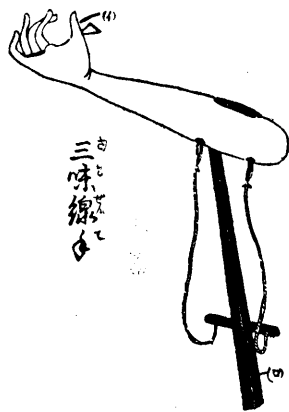
今日までに操芝居の保護、或は改革が唱導せられた事は一再に止まらない。而も依然として効果があるがらないのは操の精神を誤認してゐるからである。太夫、三味線、人形遣、仕打、ヒイキ、一切を包含した、謂ゆる斯界の人々が従來、並に今日、操の傳統精神と信じてゐるところのものは、決して操を興隆發達せしめた本来の精神でない。寧ろ、それから横道にそれた、操を没落せしめるに役立つた因習そのものに過ぎない。そんなものに固著してゐる以上操の保存は木によつて魚を求めるやうなものだと思ふ。

つて自滅の外はなくなるのである。文樂協會は、まさかさうした『旦那』であらうとしてゐるのではないことは私も信ずる。が自然にさうした『善意』の害毒を流すやうにならないとは保證出来ない。何となれば協會の申合せの中に早くもさうした片鱗を見せてゐるからである。體具的にいふとかの申合せの中に、新作を歓迎するが、極端な際物は排するといつたやうなことを麗々しく發表したのがそれであるこれは恐らく、過般上演せられた肉弾三勇士や空閑



新聞に見えた文樂協會の發起人の諸君を見ると、失禮ながら芝居の實情に明るい人は殆ど見出せない而もその道の専門家といふやうな人々は事さらのやうに交つてゐないのはどうした事かと思ふ。思ふに協會の人々の考へでは、文樂保存の重點を經濟的方面にのみおいてゐるのではなからうか。もし然りとすれば思はざるも甚しきである。それは文樂をしていよく救ふべからざるものにする怖がないではない。現に、今日操芝居の衰へた裏面には、謂ゆる『旦那』と稱するパトロンの經濟力が大きに毒してゐる。パトロンはとかくその援護の代償として自己の好尚をのみ主張する。その好尚なるものは多くは、ある意味では甚だ高級であるが、一面非常に範圍の狭い一部の一人よがり過ぎないデレツタンチズムである。佛像や茶碗や、建築物のやうなものならばそれで骨董的存在をつゞけ得るだらうが、演劇藝術のやうな流通性のあるものは、愈々その大衆性を失

少佐の如きものを指したので私も大きに同感であるといひたいが近松巢林子が三勇士以上極端な際物の心中淨るりを書いて立派に藝術的生命を保つてゐる以上、ことさらかゝる申合せを發表する要はない私は徒らにあげ足取の理屈をいふのではないが、心理的に觀察して、かうした輕卒な發表は協會の發起人たちの操に對する認識程度を不用意に暴露したもので文樂協會も亦々従來幾多の後援會同様、文樂の『没落精神』の踏襲者でないかとさへ杞憂せしめる。



賢問愚答

竹内勝太郎

一、文樂座の國家保護問題

理想案としては營利會社の手から獨立せしめて、大阪市の如き公共團體の經營に移すこと、年々數千萬圓の大世帯を張つてゐる大阪市に、その唯一の郷土藝術然も外國名士淑女が來れば必らず世界的至寶だと誇示して紹介する文樂人形操を自力で賄つて行く丈位の金は何とかして捻出できそうなものと思ふ。そうでなければ大阪の不名譽ではなからうかが今直ちにこれが實現不可能ならば權威ある指導機關を作り、之れに絶對の權限を持たせて、文樂座の經營運用の衝に當らしめる。例へば經營委員會のやうなものを設けて、單なる諮問機關でなく決議機關とし、座の組織、演出番組の編成、座員の養成研究等凡ての重要條件を茲で附議し決定して、之れを

實際に經營するもの手に移す。従つて國庫補助金や更に大阪府、市等からも補助金を仰ぎ、その處分運用もこの委員會で決定する。別に贊助員のやうなものを作つて一般市民地方から寄附金を求める。こうして財源を求めることも前記の委員會の仕事になる譯だが、何と云つてもこの財源の問題が第一で國家が保護すると云つた處で金がなければどうにもならないことは明かである。唯この財源を求める上に國家の保護があり補助金があると云ふことが一つのよい目安になるだらう。

二、將來の文樂座發展問題

歸する處は前述の通り必要な財源を得られるかどうかにある。それがあれば第一に座員の生活の保證新人の養成、現座員の技藝研究の獎勵、優秀な古典

の復興等に全力を注ぐことができる。大衆性など求める必要はない。文樂座は文樂ファンを、健實な愛好者を狭くても深く各社會層のうちに作ることを心がければいい。それには現在の如き興業政策上のマシネリズムを廢して、大膽自由に新しく上演の絶えてゐる古典なり大曲なりを研究上演して文樂固有の境地を新に開拓することに努める他はない。それが

文樂座の向上と發展である。誤つて新作などに野心を向けざること。人あつて近松の作は當時の新作、現時何ぞ新作の不可あらんやと説くが、之れは時代環境の相違を御存知ない辯論である。現代の思想感情何を苦しんでか不自由極まる古典的形式の人形淨りを借つて表現する要あらんや完。

文樂座當面の問題

高谷伸

文樂座の發展に就ては、その構成要素である脚本太夫三味線、人形の三部門それぞれに就て考へねばなるまい。

まづ脚本に就ては、興行方法の變遷から、往昔のやうに通し狂言が出ないにも拘らず、古典の一節づ

ゝを所謂みどりに並べてゐる所から問題が起る。この忙しい時節に長々と五段立のものを通して聞く暇があるものか、三の切だけ聞けばよいではないかとの説を爲す人があればそれは詭辯である。豫備智識があつてこそ切だけでも聞かれやうが、口があつ

ての切である。筋の通らない脚本のどこが面白い。節調だけを尊重する時は、さわりだけを唄ふことになるかも知れない。敢て唄ふといふ。

語られるものなれば、そこに一貫した物語が無ければならない。そこに脚本の重要性がある。端場でも重要な筋がある。

といつてこの時勢に全段通じて悠々と語れ聞かうといふのでもない。

古典を演ずるのは、特殊興行として全部通してやるのも一策ではあるが、少くとも千本櫻のすしやを出す場合には、北嵯峨、権の木、すしやと出すこと忠信の場合は鳥居前、道行、御殿と並べるといふ風に、關係の筋だけをまとめて欲しいといふのである。早い話が鮮屋だけでは權太の持出す繪像が誰の像か何故小金吾の包の中にあつたか、わかりさうな筈がない。

それでも冗が多いといふのなら、大體の作爲と、

特殊な節調を残すやうにして、簡約された脚本を書くのである。増補忠臣藏式の廻りくどさを逆に改削千本櫻を作り出すのである。勿論、筋調も切り繼ぎではいけないから新らしく作曲する位の意氣でやるのである。

古典復活も部分的では、一部好事家を喜ばすに過ぎない。

でなくば新作だ。要は豫備知識なしに見たり聞いたりできる脚本を求めることである。

大夫三味線の技術的のことは筆者の外に言ふべき人もあらうから書かぬとして、どちらが悪いか事情は知らぬが紋下の看板争ひより、次の時代のために脚本問題に頭をつかつて欲しい。相當の大夫や三味線弾きは、文樂の三部門の中では生活の豊かな人々だから、まづこの人達から動いて欲しい。改削や新作ではお座敷がつとまらないなどといふ本來を顛倒した考は棄て、欲しい。斯道衰へて何のお座敷だ

私利私慾より長い目で斯道の將來を考へねばなるまい。

人形遣ひの技巧は榮三の腹、文五郎の腕を併せて現代の最高水準が見られやう。後輩の人々にこの人々を學ばせることだ。大夫や三味線は生活が安定してゐる、脚本は古典の補修改削にしても外から人を迎へることができるとした時、人形つかひは、生活上比較的恵まれないとすれば、新しい入門するものも稀に後進養成が不可能といふことになる。さうなると發展どころか、滅亡のことを考へねばならぬ。

もし、國庫補助が具體化した時、それが文樂座國立といふ纏まつた金でない以上、用途はまづ人形遣ひ養成といふところに一致するのではないか。

しかし、將來のためには、脚本家も大夫も三味線も、人形遣ひも、すべて具へねばならない。たゞ焦眉の急として人形つかひの話をしたばかりである。

大夫三味線とて安逸をむさばるべき時ではない。きまりきつたものを、教へられたまゝにやるばかりが能ではない。後輩は先輩の技巧傳統を會得すると共に、改修新作に對する頭腦も養つて置いて欲しい補助に餘裕があれば、この方面にも欲しい。

要するに、文樂座には從來の語り物を現代の一流演者によつて聞かうといふ一部常顧客の存在は否めないが、そのみに頼ることが第一の危険であるから、院本を勉強しなくても筋の通るやうに脚本を補修といふよりも削修することを専急動議とする。

二問に答へて

島村民藏

一、文樂座保護に關する建議案が議會を通過して、補助金を下附されるやうになるといふことは、私としては初耳ですが藝術は國家が保護すべきものであるといふ原則が、從來美術に比べて不公平にも蔑視されてゐた舞台藝術の方面に對して認められた譯で、同慶の至りです。然し國寶や特別保護建造物の補助金も實際は僅かであると聞いてゐます。文樂座のみが充分な補助金を受けるといふことは到底望まれません。斯様な補助金を基本とし、これに民間有力團體が補

足的に寄附行爲をなし、官民協力して保護すべきであると思ひます。

二、文樂座附屬の技藝學校を創設して、新式教育によつて斯道後繼者を養成することが第一です。幼少の頃から仕込むといふ舊式教育は清算されねばなりません。現在の技藝員の生活を安定させるといふことも、勿論發展向上のために缺くべからざることですが、これは保護の問題に屬するでせう。

驥尾に附して

南江二郎

文樂を中心とする本諸問題の検討に就ては以上の先輩長友諸家の最も正鵠を得たる卓見と嚴正なる批判に依つて既に詳述し盡されてゐる。従つてこれに蛇足を附する必要を認めないが、ただ諸家の諸論文は主として本質的な指導的高示である爲、筆者のみはぐつとくだけた極めて通俗的真相公開による批判を敢て呈出しておきたいと思ふ。

國庫補助金は果して下附されるか

この問題に就ては巻頭に石割氏の嚴正批判あり、筆者もまたP・C第二號に詳述したから敢て繰返さないが、三月末の大阪市會でこの建議案を握りつづ

しにした水谷秀夫氏の意見の要點は、左の通りである『文樂は松竹の云ふが如き大衆的なものでは斷じてない。また文樂座に利益があれば決して市へ泣きを入れないだらう。缺損續きなるが故に補助金運動をなすので、若し此意味に於いてなすならやがて道頓堀の五座も買収せねばならぬ。市民は雜種四十錢の負擔にも喘いでゐるのだ』といふのである。私は決して文樂座側の補助金下附運動を妨害する爲にこれを敢て紹介したのではない。むしろ最も代表的な人形淨瑠璃を保存したい爲に出来るだけ多くの補助金を下附されたいと切望してゐる一人なのだ、要點は現在のまゝの經營管理制度の文樂座に對しては、

政府は勿論、府市に於いても、これに補助金を支出すべき合理的理由を見出し得ないであらう、といふ事である。こゝのところをよく見究めて一刻も早く善處してほしいと切望してゐる。

文樂協會の事業は何を目標とするか

同協會の今後は知らないが、現在までの同協會の事業が何を目標とするのか、筆者にはどうも理解し難いを最も遺憾とする。其設立趣意書を見るとそれが藝術擁護機關なのか、思想善導機關なのかと先づ疑問を發せずにはゐられない。會則第三條には

第三條 本會ハ目的達成ノ爲メ左ノ事業ヲ行フ

- 一、技藝員ノ養成並ニ技藝ノ研究ヲ補助獎勵スル事
- 二、講演又ハ解説書ノ配布其他ノ方法ニヨリ文樂趣味ノ涵養普及ニ努ムル事
- 三、適當ナル時期ニ於テ本會並ニ文樂座當事者ノ懇話會ヲ開クコト此ノ場合技藝員中ノ代表者若干名ヲ參加セシムル事ヲ得
- 四、適當ナル時期ニ團體的觀劇ヲナス事
- 五、其他必要ナル事項

今度の紋下争奪事件そのものは別として、これに關聯して、かく迄も技藝諸君の節操が亂れ果てたかと、痛感して今度こそアインが盡きた、と某氏は歎かれたが、この節操の亂れはむしろ技藝諸君の無智に基くのではないかと思ふ。例へば組見券の奔走が其一例だ。百枚組を作つてその一割を表方へ祝儀に出すと結局運動費だけ諸君の損になる、それでも少しでもいゝ役がほしい者は無理してそれを續ける。むしろあはれな感が深い。藝人の無智は時に名人を作る機縁ともなる。とすると、誰れがこんな事をさせるやうに仕向けるのか、と叫ばずにはゐられない。然し私は一方に偏して物は言ひたくない。人形淨瑠璃を崩壊させる者は、その事情は充分同情且推察するが、技藝員の節操低落も一原因であると明言しておく、ともかく技藝員諸君自らが世間に同情を乞ふて廻るが如きは男子として最も恥づべき行爲である事を自覺して諸君等だけでも自重してほしい。

とあるが、去る四月廿六日の文樂座内に開催された設立發起準備委員會で委員會から出た事業具體案なるものは、第四項に該當する同會の正會員（會員年額參拾圓を納める者）に一ヶ年通用の拾五枚の一等觀劇券を渡すといふ事等であつた。然し之が實施されて結構なのは文樂座經營者と、もう一つ特記すべきは所謂ヒキ且那諸君ぐらひであらう。なぜなら藝人直接持込みの組見券何十枚かを協會員なる理由のもとにていよく斷はる事が出来るからだ。こんなにダシに使つては終には幽靈が出るのでないかと非常に心配してゐる。操人形の足と手とは人形遣ひ諸君の所有權に屬してゐるものであること迄忘れては困ると思ふ。その後同協會の内容が如何に意義あるものに改良されたかは知らないが、名士の多い會だけにどうか世間の物笑ひにならぬ様切に祈つてゐる

技藝員の節操低落に就いて

文樂をトオキイにとる事

これに就ては小宮氏が述べられてゐるが、筆者が四月上京の節、石割氏に會つた時も同一の意見で、今、榮三、文五郎の藝を寫しとつておかなければ、到底これを後世に傳へる事は困難であらうとの事であつた。文五郎の振付型が毎日のやうに少しづつ變つてゐる事は周知の事實であるが、この變型表現は事實に於いて後進に異つた型をみせてゐるといふ事には役立つてゐないで、むしろ藝の亂れとして樂屋内の笑ひの種になつてゐる状態の今日、代表的な物だけでもトオキイにしておいて以つて標本としたものである。撮影費は一卷千圓餘で出来るから、何に使ふのか知らないが文樂協會が集めるといふ五拾萬圓の壹割もいらぬ。勿論これは興行用映畫としての使用を嚴禁すればよい。之に各種演技型の寫眞圖解文獻曲譜保印研究文獻の蒐集作成等である。

老人形師、天狗久

この寫眞は徳島市名東郡國府の自宅、天狗屋に於ける天狗久こと初代吉岡久吉氏(七十五才)とその孫なる二代目吉岡治君(廿三才)で、昭和八年三月廿一日、鳥居龍藏博士令息龍次郎氏が撮影の上、編輯者に惠送されたものである。これを機に數年前、天狗さんが某氏に話した記録が私の手許にあるから、次に紹介しておく。(但し話の中の天狗辨は現在文樂座にはゐない。)

『私は十七の時から、河島富五郎といふ人形作りに弟子入りをしました、この人は一代で亡くなりました先年亡くなつた人形忠(原純次郎)も私の相弟子です。今では人形作りは私一人です、甥の辨吉は私が仕んだのですが今では大阪の文樂座付になつてゐます。阿波人形は殆んど私の手で拵へたやうなものです。ガラス眼の動くのも私の工夫です。苦心といへば、昔は寫眞なんかで、自由に人間の形相をいろ／＼と考案出来ませんから、私は水野派の骨相を學んで、上藤とか悪人とか家老とかの心を刻んだものです。云々』

人形作りにはこの外にやはり阿波から數年前に大阪へ上つて、文樂座の桐竹門造氏の家に寄宿し、専ら修業を積んでゐる大江美之助君がゐる。年こそ未だ若いですが文樂の代表的頭を手本に日夜修業してゐるだけに昨年あたりからメキ／＼と腕を上げてゐる。近年續々と注文のある床飾り操人形製作の爲にせつかくの腕をにぶらさなかつたら、將來は文樂系の頭作りとして随一人となり得るであらう。たゞ藝道にはあくまで一筋のひたむきな集中さと熱心さが必要で、器用や上手になるより名人となるやう心掛けてほしいと言しておく。



國際操人形劇聯盟

南 江 二 郎

文樂座保護に關する建議案が今議會を通過し、時ならぬ話題を投げかけてゐる折柄、先きに一九三〇年九月十七日から二十三日まで、ベルギーのリエージュで國際的會議と公演を催した國際操人形劇聯盟が、來る六月より開催のシカゴ萬國博覽會によりスケールを大にして開催されんとしてゐることは、文樂座擁護者に對して多大の刺激を與へると共に、現代の更生せんとする人形劇の多種多様な様式を諸君に暗示するであらう。この機に同聯盟に参加してゐる各國の代表的な人形劇團ならびに指導研究家の内容及びその指導精神を概觀的に紹介することとしよう。

『ユニマ』即ち國際操人形劇聯盟は一九二九年、大戰後ヨーロッパの大衆的人形劇の首府を形成するにいたつたチェッコスロヴァキアのブライトにおいて組織され、その年の中に歐洲十二ヶ國ならびにアメリカ及び日本を加へた諸國の有志に對して、今後聯盟が主催する世界人形劇會議と公演に、それらの代表を派遣すべきことを約束せしめた。



一九二八年八月一日に開催された人形芝居博物館

る講演によつて開始された。この公演は経済學の權威であり、クローデルの序文を持つ『人形劇場』（文樂座を紹介したもの）の著者なる宮島綱男氏によつてなされたものである。同氏の歸朝の節私もその幻燈を見せて貰つたが原色版の實に精巧を極めたもので世界の専門家に示して恥かしからぬものであつた。

イギリスから送られたロンドンの操り人形劇團は輕快な芝居を見せた。彼等はイタリーの劇作家ピランデルロ的一幕物『口に花をくはへた男』を演じた。またイギリスサセックス縣のベプラー氏の人形芝居も好評を博した。文學的には取るに足らないものであつたがその人形の彫塑的效果は深い印象を與へたといはれてゐる。

ドイツのバアデンバアデンから來た世界的に有名なイヴォ・ブツフォニーの人形座は傳統的な手法を以つて古典偶人劇『ファウスト』を上



國際人形劇聯盟會長・ジンドン・クツリ・エツセー教授

一九三〇年九月十七日より二十三日まで、リエーデで開催されたユニマはこの決議の實現されたもので、文字通り操人形劇に關する世界最初の聯盟會議であり、國際的競演であつた。先づ主人側のベルギーでは、『ベルギー人形劇』の専門的研究家にしてその著者なるルドルフ・ド・ヴァルサアジがヴェルヴィエス寺院において發見した。キリスト生誕の古代偶人劇を會議室の壁間全部に山積して遠來の客をねぎらつた。この古風なる人形芝居は遠く中世紀の奇蹟劇を演じたマリオネットの系統を引くもので『クレエシユ』と呼ばれ今でも歐洲各國の大部分の村の教會でクリスマスの日に見出されるものである。

會議の四日間プログラムは日本の文樂人形及びその舞臺面を幻燈に寫し、これに説明を加へ

演じた。これに匹敵すべき傳統味豊かな演戯として優秀なギニョオルがパリのポール・ジャンヌとギニョオルの元祖ともいふべきリオンのギニョオル・ムールゲによつて公開された。

ファウスト上演後、眞夜中に會議の人々は男も女も子供も樂人達も白い外套に煙筒帽子といつた扮装で集つた。主催者はこれ等の百人にあまる遠來の客を、眞夜中に鳴り渡る喇叭の音に驚いて、ベッドの上に飛び上る街中の人々を煙にまきながら、街から街へとめぐつて、とある古ぼけた街の路地をぬけたさゝやかな辻へと導いていつた。酒杯で満たされた一つのテーブルがこの辻に待つてゐた。こゝで『ロテュール帝室劇場』の指導者デニス・ビシエローによつてコンGRESの競技のためにシャルマンとサラセンの英雄物語をかたどる戦ひのページェントが開かれた。

ユニマのプログラム中人々の興味を最も惹きつけたものにチエツコスロバキアの諷刺的道化人形がある。同國の人形劇による社會文化事業は一九一一年にその首都ブラーグに開催された人形劇展覽會の前後から現在にいたる廿年間に異常な進歩發展を示してゐる。

チエツコ政府はこの新藝術の教母となつて年々多大の補助金を支出してゐる。リエーヂの會議に政府の手によつて人形劇團を送つたのもこの國だけである。その選ばれた代表者はビイルゼンの街に優秀な新劇場を持つスクバ教授の一團であつた。ビルゼン座の主役人形は親父シュバイフル氏とその息子フルヴィネツク君で、共に一時歐洲各地に流行した歌『ソニー・ボーイ』を吹奏するサキノホンの名手として最も有名である。彼等の鼻は豚のそれに似てをり、耳は大きくとんがつて立ち、眼はぎよりとしたどんぐり目で、生れながらの道化役者であり、各國の大道人形の正系を引く後裔である。即ちこのヨセフ・スリバ教

授の人形は絲繰り人形ではあるが、その目標とするところは明にフランスのギニョオル、ドイツのカスベール、イギリスのパンチなどの持つ諷刺的にして道化的なる數百年間の傳統的大衆味を基調としてこれに新しい精神を吹き込みこれを現代に更生せしめんとしたものである。この歴史を踏臺とした大衆味に透徹したそれらの人形が異常な成功を博したことはむしろ當然であらう。

チエツコの大衆的人形に對比する各國の新興藝術人形が費用その他の關係上、ユニマにその優秀な演技を示すに到らなかつたことは誠に残念であるが、パリの『アルカンシエール座』、ベルリンのヘロー・シーゲルの人形座、及びイギリスマンチエスターの『方舟劇場』等の代表的藝術人形、デザイン、舞臺寫眞等の出品があつことは、識者に多くの暗示と教示を與へたものである。アルカンシエール座の人形はロシアのアレキサンデル・エクステルの人形と同様、藝術的感覚と科學的理智とを融合せしめて、近代機械文化の上に、生物機制的な演劇を具現せしめようと企てゝゐるものである。シーゲルの人形はクレエグヤアナトオル・フランスの人形觀と同様、近代藝術の基調をなす理智の純粹性をもつてクラシツクな人形の美を藝術として再現せしめんとするものである。またイギリスの『方舟劇場』の人形はかつてメーテルリンクの『タンダゲールの死』等を演じたミュンヘン美術家人形劇場の人々のとつた優美にして象徴的なる手法をもつて、『基督降誕』の如き神祕劇を演ずるものである。

以上の記述によつて、各國が古典人形劇の復興と保存に最大の努力を費してゐる反面、新しい時代精神をもつて新しい人形劇を創造せんとしてゐることを諒解されるであらう。チエツコスロバキアの如きは新しい國民的道化役者を作つてこれをあらゆる方面に活用してゐるといふことが出来る。また各國の新興美術人

形劇團がその普通演劇に映畫に重要な暗示を投げかけてゐることは否定出来ない事實である。来る六月シカゴに開催される一大ユニマには以上のほかにイタリーのピツコリ、イギリスのウイリアム・シモンズ、ミンヘン人形劇場、ニューヨークのルモ・ブツファノ等の世界的人形劇團も相會することである。然るに世界に比類のない文樂人形を持ち、各地に民俗的淨瑠璃人形を持つ我國の現状はどうであらうか、これら古典の至寶は崩潰するがまゝにまかせ、新興人形運動も各國に比して遙かにおくれてゐる状態である、この機に有志諸兄の一大奮起を促し、微力ながら人形劇のために努力する私のために、種々援助の便宜を與へられんことを希望してをく。

第二回「ユニマ」と私

前述の来る六月からシカゴに催される萬國博覽會會期中に開催豫定の國際操人形劇聯盟の會議と公演とは、開催の事が發表されると同時に私も出席を希望してゐたが昨年からの爲替變動に依る右出席費用の増大の爲、到底貧弱なる私財を以つては不可能となり、残念ながら半ばこれをあきらめてゐた。加へて本年一月からの米國財界の不況に基く演劇界の衰微が思はれて殆んどこれを思ひ止つてゐた。然し、最近、チェツコスロバキア、獨逸、ロシア等の藝術は第二の問題として、社會文化事業としての人形劇運動の理論と實際の報告を詳細に調査研究してゐるうちに、正當なる理由を持ち得るに到つたので、突然、三月上京、義兄今井健

彦代議士を介して鳩山文相に會ひ、右に關して政府の援助を願つた。幸にも鳩山文相はこれに深い理解を示され、文務省囑託の内諾を與へ、シカゴ博の事は商工省に屬する故を以つて、右費用支出に關し中島大臣に紹介され、私も親しく會つて話し商工局長から、シカゴ出品協會へ交渉して貰ふ事になつた、同協會の返事はなんとか考へるとの事であつたが、シカゴ萬國博の爲の豫算は既に配付済みにつき、どれだけ援助が與へられるか未定である。渡米四ヶ月の費用が現在爲替では各省の囑託割割計算に依つても八千圓ほど要るから、囑託名義だけや僅かの援助金では出席は不可能である。二三の新聞が聞込みで出席決定の如く報道したが、これは決定でないとユニマ價值が少くない爲に依る先方の都合によるのであつて、私自身が風呂敷を廣げて宣傳をした爲でない事をことはつておく、然し私のしたい仕事は英佛兩語による人形淨瑠璃の紹介、操人形、舞臺術、文獻の持參、人形淨瑠璃のトーキーに依る紹介、各國の社會文化事業としての新人形劇の研究調査等で、これに對する準備だけは責任上ほぼ済した。貧弱な財布の底をはたいて文樂系の頭、數十個を蒐集したのもその爲である。藤堂氏の好意で人形も得た。右のうち一番困難なトーキーの件も觀光局の方で開期に間に合ふ限り作るといふ内諾を鐵道省會計課長崎氏が配慮して下すつて觀光局から得て來た。然しこれも開期に間に合ふ限り、では、少々むつかしいのではないかと心配してゐる。ともあれ、自分の準備に入る期日が甚だ手遅れだつた不敏の私に對して、各方面から豫想外の非常な厚情と高配を受けた事を心から感謝すると共に、必ずこれに報じたいとかく心に期してゐる。



六號文獻

文樂座問題の反響

文樂座保護の建議案が議會を通過したのを機として、西日本の殆んど總ての諸新聞が盛んにこの問題を取上げ、同時に諸家の意見を求めてこれを誌上に掲載したが、それ等のうちで特に注目を引いたものに、二月十二日の大阪朝日新聞日曜附録に出た吳文炳氏の口述と三月九日の大阪毎日新聞に出た木谷蓬吟氏の談話等があつた。今その一なる吳經濟學博士の感想の一部を本號の參考文獻として次に紹介しておく。

今日の大阪人の文樂への關心の薄らいであることについて

一絲でつなぎきめられてゐるものは人形師である。今日古稀の老齡に近い淡路の天狗久がこの社會に唯一人生き残つてゐるのみで、然も彼には一人の弟子すらない。彼は人形の面をつくるに當つては記憶と直感と經驗さによつて作り出すに過ぎないので、その至藝の如き、記録や觀傍によつて到底生きざるべきものではない。この重大要素である人形が新たに作られず、在來のものを塗りかへるに過ぎない有様に直面してゐる今日ではないか。太夫の養成にしても若い少壯の彼らは彼らの藝を演ずる劇場、寄席さへ殆どない。彼らの生活は餘りに保證をされない。糸方も同じである。彼らが僅かに素人に稽古をつけて生活の資を得る有様では、その未完成の藝伎を素人稽古のために破壊されるに過ぎない。従つて太夫も三味線もその藝はすさむばかりである。そしてこの未熟の技を以て内容のわかりきつた古典的院本によるだけでは古典藝術の死を早めるだけである。人形遣ひの養成に至つては更に困難に遭遇する。一つ人形を三人で遣ふとすると、左手と兩足を遣ふ二人はその総合的活躍の苦心は認められず、徒らに縁の下の力持で芝居の馬の脚と五十歩百歩である。主役の人形に三人を要するのでは誠に不經濟極まるもので、將來この方面に志すものはアルの篤志家のみである。それは名人文五郎一舊時代藝の最後の一人である彼がどういふ待遇を受けてゐるかわ知つたら、古い文樂の傳統が常に名人をこうして押しこ

ては、内部から文樂自身をみる必要もあらう。文樂の最近の興行法をみると、古典的名作のしかもその中樞となるべきもの芝居なら中華物さといふべきものをあまりに續けて上演し、一、二年経ないうちに同じものを繰返さなければならぬやうに運命づけられてゐるやうであるそれは今日の大阪人の要求を満たす窮餘の策であるに相違ない。たゞ同じもので太夫を替へることによつて、僅かに單調を繕ふに過ぎない。

それは鴎治郎の芝居でも紙治、盛綱、石切榎原など數種を繰返さなければならぬのと同じであつてこの單調はやがて觀客に飽かれるに極つてゐる。芝居なら東京歌舞伎役者と呼んで、狂言にも藝にも變化を求めることが出来やうが、文樂はただ一座のみであるから、狂言の繰り返しと同じ太夫、同じ三味線では多くの客をよぶことは不可能であつて、文樂の將來に一抹の陰影の投せられることも寔に尤もな話である。

こゝにおいて文樂は急務としては更生よりも保存である古典藝術の要素は藝の洗練である。傳統精神に生氣を與へることであるから、文樂の存續の第一は人そのものでなければならぬ。即ち藝を人から人へ直接に傳へられるものに味得せしめるよりほかはない。

人から人へ傳へる藝術人形淨瑠璃で今滅びんとして、た

めてゐるが想像されるであらう。この一番經濟上惠まれない人形遣ひの將來を思へば、誠に心細い限りである。我々が阿波淨瑠璃の人形遣ひは農民藝術となつた爲めに、素人の器用さを見るに過ぎなくなりつゝある現状に思ひ至つたなら、文樂の人形遣ひの將來を略することが出来るであらう。

文樂の危機は經濟よりもむしろ内部的組織の缺陷の暴露期に瀕じつゝあることを思はねばならぬ。

古い藝術として保存されつゝある能樂は好事家の富豪に維持されてゐるが、それは謡曲さといふ素人稽古を容れる餘地があるからである。古典歌舞伎の衰微は保存さまでには至らないのである。これに反して文樂の衰微は興行の困難よりも、内部の組織に危機を孕んでゐる。文樂の維持者は六十より七十までの老人であるから、その一葉毎の脱落に一層の淋しさを感ぜしめるので誠に心細いことである。

文樂内部の組織からいへば、師子相承の習慣は捨てられないにしても、人材の登用と天才の保護に全力を注がなければならぬがそれよりも多數の人を集め多數の天才を求めて藝を洗練せしめることである。それには生活の保證が第一の條件である。

しかも一所に集中されてゐる一座の人々を補助し、生長せしめるには國家的保護にまつほかはない。新院本を作り時代に應ずる興行法も或る點まで認めなければならぬ新

作の多くのうちにも傑作は少数であるべきであるからこの傳統の至藝を淺薄な新院本によつて破壊せらるべきことも考慮に入れて置かねばならない。今日の急務は何さいつても名人の生きてゐるうちに、至藝を新人たちに残すことである。藝術は時の力で破壊滅失するとしても、千三百年前の法隆寺の今日嚴として存在するに照し、その保護は物質の力を主として十分であることが窺知出来る。人形淨瑠璃は生きたものである。総合的のものである。しかもその亡びる速度はかなり急速である。この亡びる微候の著るしくなつたもの、一度滅べば再び得べからざる至藝至寶の文學座に、議會の人々の關心をもつに至つたことは誠に大慶至極である。

文樂協會趣意書

惟ふに郷土藝術の憧憬は常に趣味性の満足のみ止まらず以て人生に娛樂と慰安を興へ不知不識の間能く人心を濡ほし思想を善導するに大なる効果あること固より言を俟たず。

近時物質文明の餘弊を受け國民の氣風漸く輕佻詭激に流れ浮薄なる刹那の享樂に魅惑せられて實實剛健の氣風年と共に消磨し去らんとす、今にして國民固有の民族精神に蘇るにあらざれば邦家の前途洵に寒心に任へず宜しく國民教

育を盛にして智徳の修養と氣力の鍛練に力を致すと共に郷土藝術の會社的機能を活用して大に性操の涵養に努め以て精神文化の興隆を期せざるべからず。

我大阪に於ける郷土藝術たる三業一鉢の人形淨瑠璃は其の藝術的洗練に於て其の社會教育的蘊蓄に於て常に大阪の有する郷土藝術として誇るに足るべきのみならず、我日本に於ける古典藝術の至寶として世界に誇るべきものにして之れに依つて我國民に興へたる精神的教化の効果頗る大なるものあり、殊に近來歴々本府校外教育聯盟の施設を支援してマチネーを催し、男女學生に觀覽せしめ、以て國民教育の有益なる社會資料を提供すると共に、青年男女の精神教育に寄與する處鮮少ならず、國民は宜しく古典藝術人形淨瑠璃に對し深甚なる感謝を表すると共に、斯道の發達を奨励し、之れが保存に盡さざるべからず。

然るに人形淨瑠璃に對する社會的注目は餘りに冷かにして、古典藝術の興亡存廢に關しては全く無關心なりしもの、如きは、洵に遺憾の至りと云ふべく、今に於て保護保存の方途を講ずるにあらざれば、近き將來に於て衰亡の運に陥ることなきを保せず、豈痛惜の至りならずや。

此時に方り、今期帝國議會に於ては文樂座人形淨瑠璃保存保護に關する建議案を可決せられ、更に我文樂座地籃の地たる大阪府會に於ても、郷土藝術保護獎勵に關する意見書案を提出せられ、満場一致の可決を見たる事は洵に藝術

の神聖を認識し民意を代表せるの舉措にして、吾人の驚喜感激措く能はざる處なり。

藝術保存に關する國民の總意既に斯くの如し政府及び大阪當局は之れに對し適當なる措置を執らるべしと雖も、一面社會も亦至藝至寶の古典の姿を永久に保存すると共に、積極的保護獎勵を加へ、將來益々情操教育の普及向上と精神文化の興隆に大なる貢獻を期待せざるべからず。

吾人は如上の趣旨に依り、爰に文樂協會を組織し天下同憂の士の贊助を得て所期の目的を達成せんことを、若し夫れ本會事業の内容に至りては載せて別項會則に在り、請ふ絶大の賛襄を賜はらんことを。

「藝術殿」の研究論文隨筆（六、七年度）

國劇向上會刊行の雜誌「藝術殿」には個人劇に關する貴重なる研究論文隨筆が創刊以來多數に掲載されてゐる。次にその目錄を發表順に列挙して、有志諸兄の參考に呈供する。

- 人形三人遣ひの源流 石割松太郎(第一卷第六號)
- 淨瑠璃の間の物 三田村篤魚(第一卷第七號)
- 昭和六年度人形劇界 南江 二郎(第一卷第八號)
- 吉田文三郎の初代と二代 石割松太郎(第二卷第一號)
- 人形芝居開演に要する品目 三田村篤魚(第二卷第一號)
- ペトルーシカ研究序論 南江 二郎(第二卷第一號)

- べ劇の舞臺構成と基本的頭 南江 二郎(第二卷第三號)
- ペトルーシカの臺本考 南江 二郎(第二卷第五號)
- 出遣の人形体制 三田村篤魚(第二卷第六號)
- ペトルーシカの臺本考 南江 二郎(第二卷第六號)
- 支那の影畫人形芝居 升屋治三郎(第二卷第七號)
- 外に「演劇學會」編輯の「演劇學」第一卷第一號(七年五月)
- 所載の石割松太郎氏の「豊澤團平の研究」第二號に内海繁太郎氏の「人形舞臺を中心としての國性命合戦」等がある。
- 編輯部よりお願ひ「この種、他誌に發表の諸家の研究を文献として出来るだけ洩れなく紹介したく御通知願ひます

南江二郎執筆目錄（昭和六、七年度）

- 兒童と人形芝居 「明日の兒童」(六年九月)
- 人形芝居に關する各項 富山房百科辭典 (六年)
- 西歐に於ける影畫人形芝居 「劇作」(七年一月)
- 兒童の爲の人形芝居 「童話研究」(七年一月)
- 情操教育と人形芝居 「歌劇」(七年一月)
- 人形脚本「お日様と地球」四幕 「婦人」(三月)實探で上演
- 人形劇「森のピノチオ」三幕 「童話研究」(七年五月)
- 人形劇「お膳のない玉様」一幕 「實探小劇場上演」(六月)
- 人形劇「鼻高ぼんち」一幕 「實探小劇場上演」(九月)
- 影畫芝居項 平凡社百科辭典 (七年)



寄贈本御禮

昭和八年一月より四月末迄

- ★隨筆集・青丘 雜記 安倍能成氏著(岩波書店版)
- ★詩集・澄江堂遺珠 佐藤春夫氏編(岩波書店版)
- ★小説集・提婆達多 中勘助氏著(岩波書店版)
- ★講座・世界文學 第一冊より五冊(岩波書店版)
- ★隨筆集・茜草 今井邦子氏著(古今書院版)
- ★民謡集・國さかひ 白鳥省吾氏著(大地舎版)
- ★詩集・象牙海岸 竹中郁氏著(第一書房版)
- ★隨筆集・舞臺の合間に 水谷八重子氏著(演劇研究社)
- ★譯著・ダイナモ 志賀勝氏著(新生堂版)
- ★詩集・父童子自然 前田鐵之助氏著(詩洋社版)
- ★歌集・柳の葉 今井邦子氏編(國民新聞社)

- ★詩集・夜虹 俵青茅氏著(青樹社版)
- ★詩集・マクベスの釜 荒木二三氏著(青樹社版)
- ★詩集・枇杷 藤井芳氏著(青樹社版)
- ★詩集・花さまごころ 竹内てるよ氏著(溪文社版)
- ★詩集・現代日本詩集 詩人時代社版(詩人時代)

編輯後記

「マリオネット」改題更生創刊の本誌に趣意を賜つた道途先生を初め、甚だ失禮な課題に依る御執筆お願ひにもかゝはらず心よく玉稿を惠與された先輩知友諸家に對して心から感謝申し上げます。右のうち坪内士行大西利夫兩氏のものには私も同人になつてゐる「P、C」から轉載させていたつたものです。次號は兒童の爲の人形芝居號とし、各國の其の現狀日本各兒童人形座の現狀紹介を初めそれに關する理論と實際研究をします。尙ほ本誌の挿畫は裝飾的なるものを排し文獻的なものとします。

昭和八年五月二十日印刷納本 頒價八十錢
昭和八年五月廿五日發行頒布

兵庫縣武庫郡大社村中字蓮葉
編輯發行者 南江二 郎
大阪市西淀川區堀江中一丁目四七
印刷所 イシダ 號印刷所
大阪市西淀川區塚本町一六八ノ三 電話土佐三三二七番
印 刷 人 門田 幾 太郎
發行所 郷土演劇協會
京都府船場町字河原町
振替大阪一八一九二番

MARIONNETTE

集募員會究研部各出演
郎二江南



戯曲は人形に據つて演ぜられ、成功するほどのものでなければ駄目だ。(ゲエテ) 人形芝居に於いて私達は演出創造に必要な總ての要素を研究し得る。(クレエグ) 此兩先覺の信條は不朽の名言であると私は信じてゐる。人々はあまりに人形といふ常識概念に捕はれ過ぎる觀がある。ポエジイが文學のエッセンスであると同様に人形芝居は演劇のアルファでありオメガであるとも云ひ得るのだ、少くとも人形芝居研究室はレギュラードラマに對する最も本質的なデッサンを與へるアトリエである事は確かだ。私が演劇に入るに先立つて詩作拾年の修業を積み、尙ほ人形芝居の研究に拾年を期するのその爲である。この言葉の眞意を理解してくれる人だけを同志として迎へたい。一度同志として契つた以上、先方から捨てない限りまた眞情を裏切らない限り、私はその人と一生苦樂を共にするだけの覺悟を持つ、

會則めきたるもの

- 一、敢て人形芝居と限らず、人形芝居の演出研究を主調として、一般演劇の理論と實際の研究を目的とす。この研究部門を文學部、美術部、音楽部、演技部及び經營部の五部に分つ。映畫ならびにラヂオドラマ研究等も勿論附加す。
- 二、入會希望者は履歴書を添へ南江へ直接面談申込みたし。但し本會は研究の眞實とその内容の充實を期する爲、最少限度の少數會員としたく。爲に入會採否の件は南江にまかされたし。右は南江の責任感に基くものにして他意なし。
- 三、研究会費其他の件に關しては會員全部決定の上、一同の會議により決定するものとす。但し月謝めきたるもの、又は文學同人雜誌費の如きものは取らず。

・マリオンネット第一巻總目次・

NOTE ON MARIONETTES... E. GORDON CRAIG
TO THE MARIONETTES ... H. TH. WIJDEVELD
THE MARIONETTE ... VERUMEUS
AND THE ACTOR ... BUNING
A WORD ON PUPPETS ... ARTHUR SYMONS

偶人劇に關するエピタラム	坪内 逍遙
そのの	高野 辰之
そのの	阿部 次郎
そのの	野口米次郎
そのの	長田 秀雄
そのの	薄田 淳介
そのの	安倍 能成
そのの	小出 愼重
そのの	竹久 夢二
そのの	相馬 御二
そのの	土田 杏村
生物機制學と人形芝居	南洋 二郎
無言劇と詩劇の一考察シモンズとクレゲ	南洋 二郎
人形芝居の景事	小寺 融吉
人形劇舞臺裝置への一つの提案	遠山 靜雄
人形劇舞臺の藝術家の「人形劇場」ウオルケ	島村 民藏
伊太利偶人劇の假面	南洋 二郎

人形芝居の臺帳としての近松の淨るり	石割松太郎
寫實か非寫實か	坪内 逍遙
人形淨瑠璃の首	南洋 二郎
人形淨るりの保存を緊急に行ふべき當面の事	石割松太郎
ビッコリ座の人形芝居	竹内勝太郎
文樂人形淨瑠璃論	土田 杏村
民衆と人形芝居	南洋 二郎
舞踊と人形劇に就て	高橋 廣江
ボエジータトル小論	竹中 久七
淨瑠璃の難解句	石井 琴水
人形と人間の創造性	仲木 貞一
エビツクに關するノートから	佐藤 一英
人形 膚 淺 觀	馬場 孤蝶
人形芝居に就て	秋田 耕作
無題	山田 耕作
心で遣ふ人形	結城孫三郎
今の人形淨瑠璃	阿部 次郎
忠臣蔵道行の謎ほごき	河口 慧海
人形のノートから	内海繁太郎
文樂の人形に寄せて	ポール・クロアール
音樂と操り人形芝居	ハンス・エルモール
演劇とは何んぞや	マレヴィン スキー

喜劇の形式の雜形 …… カル ロラツカ
ブラッチノ劇に對する喜劇範例 …… カル ロラツカ
私は人形芝居が好きだ …… アナトオル・フランス

挿 畫 南洋二郎編輯挿入

コロタイプ寫眞版 三十一圖

古代希臘演劇假面の一組 …… 一
エクスチエル人形座所屬の人形・西班牙の紳士淑女 …… 二
マニエル・ド・フエラの歌劇 …… 三
墨川亭雪麿作「忠臣藏替伊呂波」の …… 四
人形舞臺圖(國貞畫) …… 五
人形芝居の舞臺裝置圖(遠山靜雄氏圖) …… 六
幻想劇「Nachtstuck」の一場面 …… 七
結城孫三郎一座の系操り人形 …… 八
メーテルリンク作「タンタチールの死」舞臺圖 …… 九
シュニツツレル作「勇敢なるカシアン」の舞臺圖 …… 一〇
伊太利古代操り人形(ヴェニス市民博物館所藏) …… 一一
巴里小劇場の人形 …… 一二
土佐操人形淨瑠璃の舞臺圖(聲曲類纂) …… 一三
「妹背山」のお三輪 文樂座所演・道手吉田文五郎 …… 一四

人形淨瑠璃の首・文七 …… 一七
同・山入の金時・沼津の平作・興助平又平 …… 一八
同・老女形・八沙・老女形・娘 …… 一九
同・定之進・鬼一・白太夫・男 …… 二〇
同・團七・孔明・檢非違使・源太 …… 二一
同・お岩・かぶ・宗玄・莫那 …… 二二
「本朝二十四孝・勤助物語の段」勤助(道手吉田榮三) …… 二三
「義經千本櫻・鮎屋の段」いがみの權太 …… 二四
系操り淨瑠璃人形の解剖圖 …… 二五
ビッコリ座の人形 …… 二六
人形淨瑠璃の頭四ツ(天狗久作) …… 二七
佛蘭西人ビエル・セツトのギニョオル所演 …… 二八
三十三間堂棟由來のお柳(道手桐竹紋十郎) …… 二九
一八六〇年頃の獨逸系操り人形 …… 三〇
ヴィガント作「ドクタア・フアウスト」 …… 三一
に出る二匹の惡魔 …… 三二
伊太利未來派の舞臺圖裳 …… 三三
ウイグマン女史の假面舞踊 …… 三四
P.U.K.第二回公演人形芝居「從卒ボンヌ」第四場 …… 三五
伊太利偶人劇の定例登場人物・原色彩色石版(六圖) …… 三六
第一巻・卷頭扇畫(古代希臘のテラコッタ人形 凸版挿畫拾壹圖) …… 三七

岡本綺堂監修・六月號

舞臺

第四年
六月號

五十錢
送料・一錢五厘

露のあとさき(二幕)……………川村花菱

天龍一葉舟(二幕)……………伊藤松雄

あをぎり(四幕)……………關根勝太郎

琵琶縁起(二幕)……………長野吉高

笑劇早桶(二幕)……………山口竹美

聚樂物語(二幕)……………山下巖

集詩新・郎二江南



★寸賣頒右・本殘部拾參ちう・版出約豫藏家定限部百二★
★子の鳥渡手紙表・金天截半六四一裁體・篇七詩・容内★
★宛者著錢拾六價頒・附耳渡手製特紙局前越一紙用文本★

說苑・重要記事滿載

◎誌友規定

◆本誌半箇年以上の直接購讀者に限る
半ケ年 二圓八十錢
一ケ年 五圓五十錢

◆特別號及郵稅判引
◆漢濱引茶話會其他の催物に招待す

◆脚本添削の希望に應ず。優良作品は綺堂先生嚴校の上本誌に掲載し劇壇に紹介す

大村嘉代子戯曲集

舞臺書第三卷

堂島繁昌記(二幕)

小秋の朝(二幕)

首斬役の家(二幕)

松を伐る(二幕)

定價五十錢 送料四錢

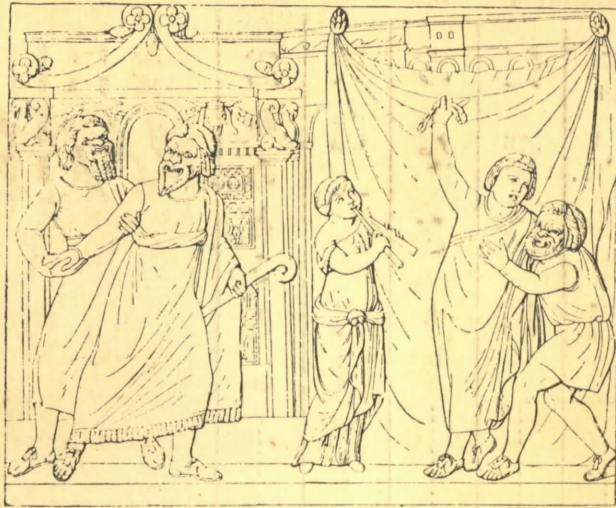
四六版百五十餘頁。美裝申込所 本社宛

東京市杉並區 舞臺社 振四 替八 口六 座八 東三 京番

MARIONETTE



第二卷合册頒賣



卷 全 容 内

本文一★假面覺書・クレエグ★演劇假面の蘇生・南江二郎
 ★人形劇の舞臺裝置・吉田謙吉★フィルムにマリオネット・
 山下元★人造人間と藝術・西村眞琴★マリウイグマン・原
 テイクソン・小林美彌子譯★人形芝居の故郷・原ヒツシエル
 南江二郎譯★能樂と文樂の美しさ・サカロフ★私は人形芝
 居が好きだ・アナトオル・フランス★偶人劇私説・黃眠瞳人
 形ダーク操り人形印象記・萩原朝太郎★人形劇脚本「パンチ
 とジユテイ」・本田滿津二譯★同「教師のポリシネル」原デュ
 ランテイ・鳥居幸子譯★テュランチイの人形芝居・南江二郎
 ★同「ベトルシユカ」・原ミツトコフ・小林美彌子★西歐偶
 人劇臺本雜考・南江二郎★ベトルシカに就て・エフモフ★文
 樂座所見・マリヤ・ヒバア★歌舞伎の民俗學的研究の概念・
 竹内勝太郎★中世紀以後に於ける人形劇・原チエンバアズ・
 山本修二譯★ベトルシカの話・小西謙三★新人形劇作法
 書目・南江二郎★第四號刊行せず 挿畫一 新演劇假面圖
 (コロタイア版)七葉★新古舞踊圖(同)四葉★新古人形劇舞
 臺畫(同)十二葉★操人形の凸版圖十數葉

頒價多圓五拾錢一申込所下記

兵庫縣武庫郡大社村中字蓮葉 南江二郎宛

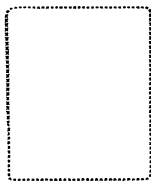
郵便はかき

兵庫縣武庫郡大社村中字蓮葉

昭和園

南江方「人形芝居」編輯部

御中



人形芝居

御住
欄名貴



埃及の影畫人形

購 廣 申 込 書

雜誌「人形芝居」の直接購賣會員に加入致したく一期分
全額會費金參圓也を相添へ(別送)右申込みます

前
會
費
金
參
圓
也